

★埋蔵文化財調査センター講演会

●「しまねの弥生文化の源流を探る」 ～朝鮮半島と出雲・石見・隠岐～

11月12日に島根県民会館で、島根県域の弥生文化の成立と朝鮮半島との交流をテーマとした講演会を開催しました。

はじめに島根大学の平郡准教授の講演があり、朝鮮半島の青銅器時代の遺跡や日本で出土している朝鮮半島系遺物を紹介しながら、朝鮮半島と島根県域の交流について発表されました。

つづいて発掘調査担当者らによる事例報告が行われ、松江市にある堀部第1遺跡や古浦遺跡などの弥生遺跡と渡来人の関係、朝鮮半島と島根県域の青銅器や墳墓の比較について解説を行いました。

最後に登壇者によるパネルディスカッションが行われ、約100人の聴講者が見守るなか、島根県域の弥生文化の源流について意見が交わされました。



講演の様子

刊行案内

●平成28年度刊行発掘調査報告書

平成24年度から27年度にかけて行った発掘調査報告書を6冊刊行しました。

このうちの3冊は大田市仁摩町の古屋敷遺跡の調査についてまとめたものです。古屋敷遺跡は縄文時代後期から弥生時代前期の遺跡で、縄文時代の木棺墓、水さらし場遺構、弥生時代の杭列を伴う水路などが検出されました。

報告書は県内の図書館等に配布したほか、PDFデータは全国遺跡報告総覧のホームページで閲覧可能です。



しまねのまいぶんミュージアム

邑南町郷土館（邑南町下亀谷）

邑南町郷土館では町内で収集された数多くの化石や民具、古文書などとともに、遺跡から出土した考古資料を展示しています。展示品の中には国内で初めて発見された四隅突出型墳丘墓である順庵原1号墓で出土した遺物や、中山墳墓群で出土した短甲、野伏原古墳出土の装飾大刀や、中世陶磁器など、町の歴史を物語る多様な資料を展示しています。

たたら製鉄にかかわる資料も多数収蔵しており、なかでも国内で現存例の大変少ない天秤ふいごは大変貴重なものです。

【開館時間】9:00 ～ 16:00

【入館料】 無料

※臨時休館日の場合がありますので事前に電話にてご確認ください。

【お問合せ】Tel. 0855-83-1580



わかりやすい！島根県の埋蔵文化財情報が満載！

島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ土器

まいぶん

No. 63

まいぶんくん



御堂谷遺跡で見つかった
弥生時代中期の竪穴住居跡

焼失住居の炭化材



大田市域最大級の集落 ① 御堂谷遺跡（大田市鳥井町）

御堂谷遺跡は、大田市鳥井町の丘陵上に位置しています。山陰道（大田静間道路）の建設に伴い6月から12月にかけて発掘調査を行いました。

遺跡の東側をA区、西側をB区に分けて調査を実施し、多数の遺構や弥生時代前期～古代にかけての遺物を確認しました。A区では、弥生時代後期頃の竪穴建物1棟、古墳時代中期頃の竪穴建物2棟、古墳時代中期頃の掘立柱建物や加工段などが発見されました。古墳時代中期の竪穴建物のうちの1棟からは、祭祀具である土製勾玉が出土しました。

B区では、弥生時代中期の竪穴建物1棟、弥生時代後期の竪穴建物4棟、古代の竪穴建物1棟などが発見されました。弥生時代中期の竪穴建物からは、当時大変貴重であったガラス玉も出土しています。その他、山門跡と考えられる柱穴や灯明皿、朱墨の付着した須恵器などが出土していることから、当地に古代の仏教施設があったものと考えられます。

今回の発掘調査で大田市域における弥生時代～古代にかけての集落の様子や仏教信仰の様子などが分かってきました。

島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ土器
まいぶん

No.63

発行：平成30年3月

編集・発行

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 松江市打出町33

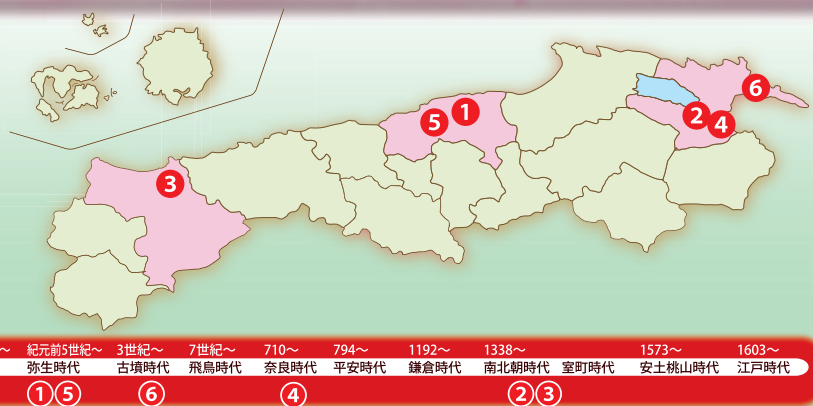
TEL.0852-36-8608 FAX.0852-36-8025

E-mail: maibun@pref.shimane.lg.jp

http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/



島根県の最新発掘情報 平成29年度(下期) 発掘調査ガイド



■掲載した遺跡についての問い合わせ：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター TEL 0852-36-8608

室町時代の大規模区画溝を発見 ②川原宮Ⅲ遺跡 (松江市大庭町)

川原宮Ⅲ遺跡は、国道432号大庭バイパス建設に伴い、昨年9月から12月にかけて発掘調査を行いました。遺跡のある大庭町一帯は古代から中世にかけての出雲の中心地で、周辺には国史跡山代二子塚、出雲国山代郷遺跡群正倉跡などの重要遺跡があります。調査の結果、最大幅4.5m、深さ75cm前後の室町時代の区画溝を発見しました。区画溝は台地を南北方向に延び、北端でL字状に西（谷側）に曲がっていました。区画溝の用途はよくわかりませんが、敷地を区切るための堀や台地から谷へ抜ける道として使われたのかもしれない。区画溝の西側には柱穴跡が60余りあり、建物が建っていた可能性も考えられます。中世大庭地域の土地利用のようすを考えるうえでたいへん貴重な調査となりました。



室町時代の区画溝



川原宮Ⅲ遺跡（南から撮影）



中世の大規模な水路跡 ③蔵廻り遺跡 (益田市西平原町)

蔵廻り遺跡は山陰道（三隅益田道路）建設に伴い、10月から12月にかけて発掘調査を行いました。遺跡はJR鎌手駅南側の平坦地に位置しています。調査前に畑だった場所の下から、幅10mをこえる大規模な水路跡が見つかりました。出土した遺物から、この水路は15世紀から16世紀ごろに開削されたことがわかります。

遺物は青磁、白磁、天目茶碗、「風炉」という茶道具などがありました。当時、中国や朝鮮から輸入しなければ手に入らなかった陶磁器類の割合が多いこと、また当時文化の最先端であったお茶関係の道具が含まれていることから、これらの貴重品・奢侈品を入手したり、大規模な水路を開削する経済力をもった有力者が遺跡周辺に住んでいたと考えられます。

また、この水路が埋没した後18世紀になると、木や石を組み合わせた大規模な遺構が作られていたこともわかりました。土止め、道路、水路等として使われたものと考えられます。



木組遺構



中世の大規模な水路



政庁跡の礎石建物を発見！ ④史跡出雲国府跡 (松江市大草町)

史跡出雲国府跡の実態を明らかにするために、平成27年度から第3次発掘調査を行っています。国府とは今からおよそ1,300年前（奈良時代初め）に全国60余国にそれぞれ設置された地方支配の拠点で、国庁をはじめ様々な施設がつくられました。

今年度は国庁とその周辺を発掘しました。調査では、これまで掘立柱建物のみと考えられていた国庁の正殿もしくは後殿の建物が、礎石建物跡に建て替えられていたことがわかりました。国庁の北側では底に石を敷き詰めた池状の遺構が見つかりました。この池状遺構は幅10m以上、長さ14mあり、方形であったと考えられます。また、この遺構の埋め土からは10世紀～11世紀の土器が大量に見つかり、この地域が古代末まで重要な場所であったことがわかりました。



池のような遺構と茶臼山



礎石と考えられる大型の石



古代の遺構の検出状況

弥生時代の水利施設を発見 ⑤平ノ前遺跡 (大田市静間町)

山陰道（大田静間道路）建設に伴い、10月から12月に発掘調査を行いました。前年度の調査では、古墳時代の水路跡から全国でも発見例の少ない金銅製歩揺付（こんどうせいほうようつき）空玉（うつろだま）などが出土し、首長クラスの有力者が存在したことがわかりました。

今回の調査では、倉庫と考えられる古代の総柱建物跡1棟と弥生時代の溝跡2条を確認しました。弥生時代の溝跡では、流路に直交するように矢板や杭の打ち込みによって堰（せき）を作り、下流部に分水する水利施設が発見されました。この施設は、旧静間川から周辺の水田に水を供給するためのものと考えられ、弥生時代からこの地の開発が行われていたことがわかりました。



古代の総柱建物跡



水利施設



弥生時代の溝跡

伯耆との交流を物語る古墳 ⑥海崎古墳群 (松江市美保関町)

市道才軽尾線道路整備事業に伴い、平成29年8月から11月にかけて発掘調査を行いました。遺跡は島根半島の南側、美保湾に面した標高約107mの尾根上に位置します。3基の古墳が知られており、1号墳では竪穴系横口式石室、3号墳は横穴式石室をもつものです。

今回の調査は古墳の裾部の調査を行い、1号墳の石室に南西向きの羨道がとりつくこと、2号墳ではごく小形の箱式石棺、3号墳には外護列石が伴うことなどがわかりました。

竪穴系横口式石室の存在や横穴式石室の構造など、出雲部よりも伯耆地方の古墳に類似点があり、出土須恵器にも同地方産のものと考えられるものが含まれ、美保湾を介した海上交通での交流がうかがわれます。



1号墳石室



3号墳外護列石

問い合わせ先：（公財）松江市スポーツ・文化振興財団 埋蔵文化財課 TEL：0852-85-9210